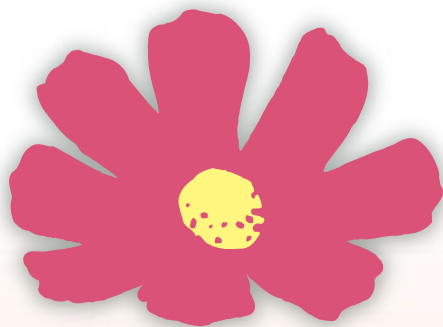




2012 REPORT

千葉興業銀行レポート

ミニ・ディスクロージャー誌

第91期 営業の中間ご報告

平成24年4月1日～平成24年9月30日

目次

ごあいさつ・企業理念	2
経営方針	3
営業の概況	4
地域コーナー	9
CSRの取組み	11
トピックス	17
財務諸表	19
役員・株式の状況	21

当行の概要 (平成24年9月30日現在)

設 立：昭和27年1月
本 店：千葉市美浜区幸町二丁目1番2号
資 本 金：579億4,189万3,949円
従業員数：1,273名



[ちば興銀は、次世代認定マークを
取得しています。]

ごあいさつ



平素より、千葉興業銀行をお引き立て賜り、誠にありがとうございます。平成24年度中間期の当行の経営内容や業績、CSRの取組み等につきまして、ミニ・ディスクロージャー誌にまとめました。ご高覧いただければ幸いに存じます。

当行は、平成23年4月より中期経営ビジョン『ちば興銀“変革・成長”戦略』に基づく戦略施策を積極的に展開しております。平成24年上期における国内経済は、復興需要等を背景に持ち直しの動きが見られたものの、長引く円高、海外経済の減速などの懸念材料が残り、先行きは依然として不透明な状況にあります。当行が営業基盤とする千葉県経済においても、改善の動きに足踏みが見られ、中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況にあります。このような時こそ、千葉県経済の力強い回復に向けて、「地域の お客さまのベスト・コンサルタント」、さらには「選ばれ続け、地域・お客さまになくてはならない絶対的存在感のある銀行」を目指し、当行グループの総力を結集して業務に邁進していく所存です。

今後とも、より一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成24年11月

取締役頭取・CEO 青柳俊一

企業理念

地 域 と と も に

私たちは、地域とともに歩む銀行として、人々の幸せを求めて、豊かなふるさとづくりに努めます。

お客さまのために

私たちは、積極的にお客さまのニーズに応え、創造性を発揮し、より質の高いサービスの提供に努めます。

「親 切」の 心 で

私たちは、心のふれあいを大切にし、自己を磨き、親切ナンバーワンをめざします。



経営方針

平成23年度、平成24年度の2か年におきましては、中期経営ビジョン『ちば興銀“変革・成長”戦略』に基づき、経営課題である「トップライン収益の極大化」と「持続的成長基盤の構築」の実現に向け、「顧客ロイヤルティ向上戦略」を経営戦略の根幹とした具体的施策に取り組んでおります。今年はこの取組みの仕上げとなる重要な年であり、全行員・スタッフがー丸となって業務に邁進し、「地域の お客さまの ベスト・コンサルタント」さらには「選ばれ続け、地域・お客さまになくてはならない 絶対的存在感のある銀行」をめざしてまいります。

企業理念 地域とともに お客さまのために「親切」の心で

当行のあるべき姿(10年後)

選ばれ続け、地域・お客さまになくてはならない 絶対的存在感のある銀行

“ちば興銀ブランド”の確立

当行のめざすべき姿(5年後)

地域の お客さまの ベスト・コンサルタント “ちば興銀”

“ちば興銀ブランド”の発現

平成23-24年度中期経営ビジョン

『ちば興銀“変革・成長”戦略』 トップライン収益極大化と持続的成長基盤の構築

“ちば興銀ブランド”の創造

相談対応力・課題解決力を持ち、
真摯・親身にお応えする銀行

顧客ロイヤルティ向上戦略

顧客基盤・収益基盤の強化

1 新たな顧客・収益の創出に向けた取組み

- ロイヤルカスタマーの拡大・増強
中小企業(オーナー)、地権者、金融資産富裕層に対する取引推進強化
- 顧客ニーズ基点の営業態勢強化
- 強固かつ中長期的な顧客リレーションシップの構築
- 「個人」への営業展開の強化

2 顧客接点の継続性・持続性を高めるための取組み

- 顧客満足度(CS)の向上 ■ 顧客対応力の向上
- 顧客サービスの向上

3 当行「強み」のさらなる強化のための取組み

- 地域密着型金融の恒久的な取組み
経営改善・事業再生に向けたコンサルティング機能の発揮
- 成長基盤分野・事業への支援強化
「医療・介護・福祉」「農業(アグリ)」を重点とする支援強化

人材・組織基盤の強化

1 コンサルティング能力の向上

- コンサルティング人材の育成・強化
- コンサルティング機能提供態勢の強化

2 人材育成と組織力の強化

- 自律型人材育成等の強化 ■ 組織活力・体制の強化
- 業務改善・効率化への取組み強化
- 創立60周年記念事業の展開
- みずほグループ・アライアンスの活用強化

3 経営体質の強化

- リスクマネジメントの強化
- 強固なコンプライアンス態勢の構築
- コスト管理高度化体制の強化
- 財務体質の強化、外部評価改善への取組み強化
- 株主・投資家リレーションシップの強化

営業の概況

グラフ等に記載の計数および解説文中の計数は単位未満切捨て表示となっております。

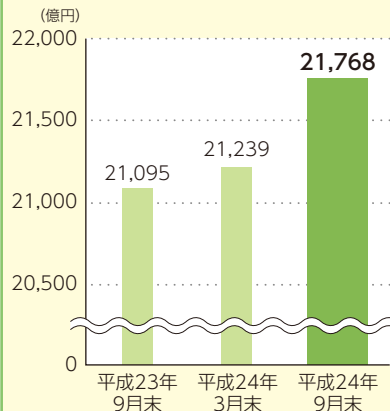
預金・貸出金の状況～預金・貸出金は順調に推移～

総預金の当中間期末残高は、前年同期比673億円増加し2兆1,768億円となりました。個人預金については、「マリーナズ応援団定期2012」等がご好評をいただき、前年同期比503億円増加し1兆7,051億円となりました。

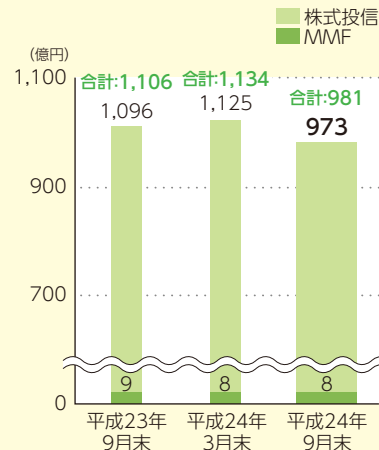
投資信託の預り資産残高は、単位型投資信託の償還や株式相場の変動の影響もあり、前年同期比124億円減少し、981億円となりました。

総預金残高

※総預金残高には譲渡性預金を含めております。

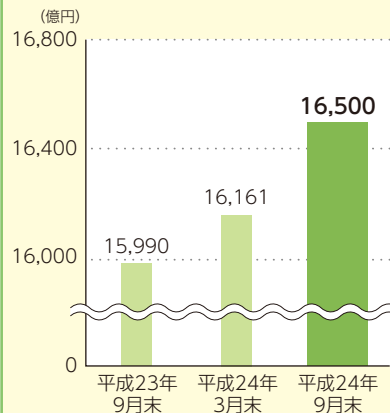


投資信託残高

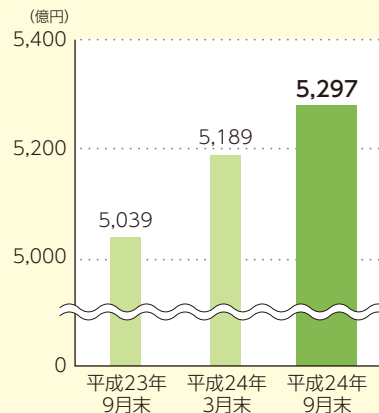


当中間期末の貸出金残高は、地域のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えし、コンサルティング機能の強化に努めた結果、前年同期比509億円増加し1兆6,500億円となりました。住宅ローンについては、住宅販売会社等との連携強化、相談会開催等によりお客さまの借換えニーズに積極的に取組んだ結果、前年同期比257億円増加し5,297億円となりました。

総貸出金残高



住宅ローン残高



損益の状況

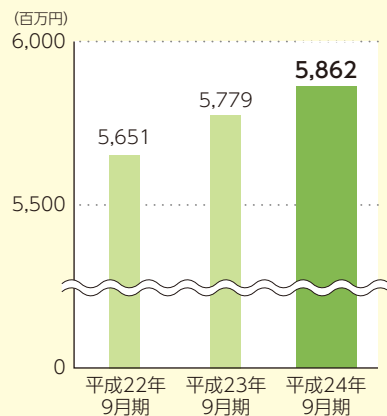
市場金利の低下等により預貸金利鞘の縮小傾向が続くなか、資金利益は前年同期比3億円の減少となりました。一方、国債等債券関係損益が前年同期比3億円の増加となりました。その結果、業務粗利益はほぼ前年同期と同水準となりました。経費は前年同期比減少となり、業務純益(一般貸倒引当金繰入前)は前年同期比83百万円増加しました。業務純益(一般貸倒引当金繰入前)から国債等債券関係損益を除いたコア業務純益(※)は、前年同期比2億64百万円減少し55億19百万円となりました。また、厳しい経済状況のなか、お取引先企業の経営改善支援の取り組みや与信管理の徹底により貸倒引当金戻入益の計上や償却債権取立益が前年同期比増加し、経常利益は、前年同期比9億55百万円増加し55億34百万円となりました。

中間純利益は、前年同期比7億63百万円増加し48億2百万円となりました。

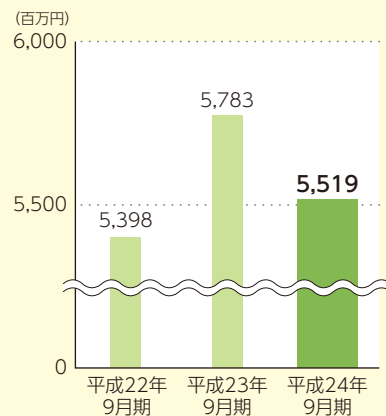
※コア業務純益

業務純益から一般貸倒引当金繰入額、国債等債券関係損益を除いて算出しております。

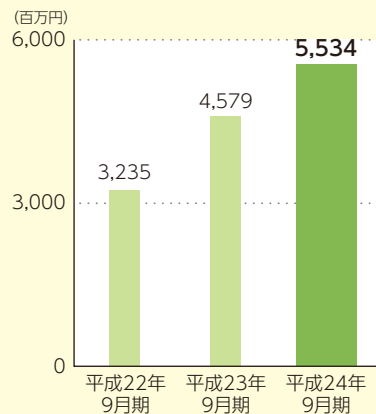
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)



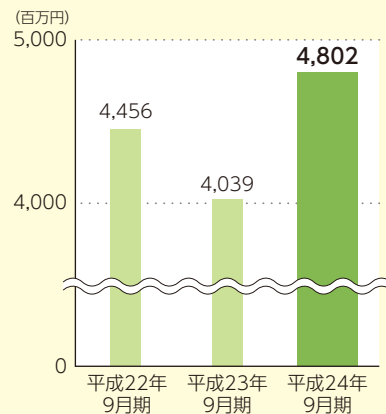
コア業務純益



経常利益



中間純利益



自己資本比率等

平成24年9月末の自己資本比率は、中間純利益48億円の計上等による基本的項目が平成24年3月末比49億円増加したことなどにより、平成24年3月末比0.13ポイント上昇し、10.27%となりました。経営の効率性を示す経営指標であるコアOHR^(※1)は、コスト管理高度化の取組みにより経費が削減されたものの、業務粗利益(除く国債等債券関係損益)の減少により68.92%と前年同期比0.90ポイント上昇いたしました。また、収益性の高さを示すROA^(※2)は、コア業務純益の減少により0.47%と前年同期比0.03ポイント低下いたしました。

※1 コアOHR

(経費対コア業務粗利益率=経費÷コア業務粗利益(除く国債等債券関係損益)×100)

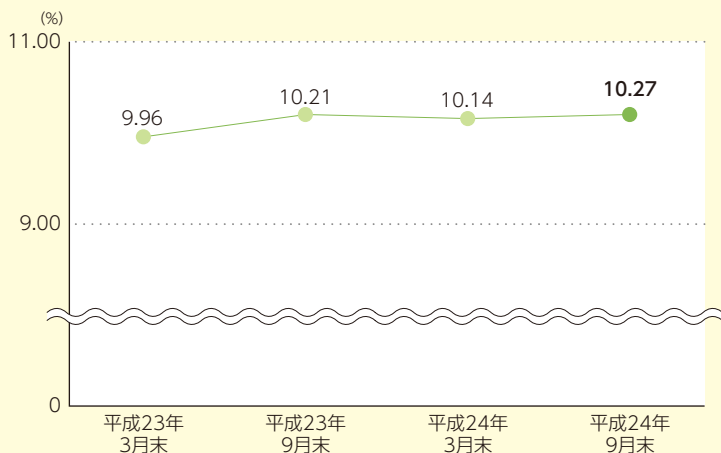
一定の業務粗利益を得るために、どの程度経費がかかっているかを表す指標で、値が小さいほど経営の「効率」の高さを示しています。

※2 ROA《コア業務純益ベース》

(総資産利益率=コア業務純益÷総資産期中平残(除く支払承諾見返)×100)

投下された総資産が利益(コア業務純益)を得るために、どの程度効率的に利用されているかを表す指標で、値が大きいほど経営の「収益性」の高さを示しています。

自己資本比率



自己資本比率算定明細表

(単位:%・百万円)

	平成24年3月末	平成24年9月末
1.自己資本比率	10.14	10.27
2.基本的項目	127,223	132,165
3.補完的項目	8,255	8,244
(イ)うち自己資本に計上された再評価差額	-	-
(ロ)うち劣後ローン残高	5,500	5,500
4.控除項目	193	191
5.自己資本 2+3-4	135,285	140,218
6.リスクアセット	1,334,005	1,364,612
うちオン・バランス	1,243,046	1,274,644
うちオフ・バランス	22,383	21,730
うちオペレーショナルリスク	68,575	68,236

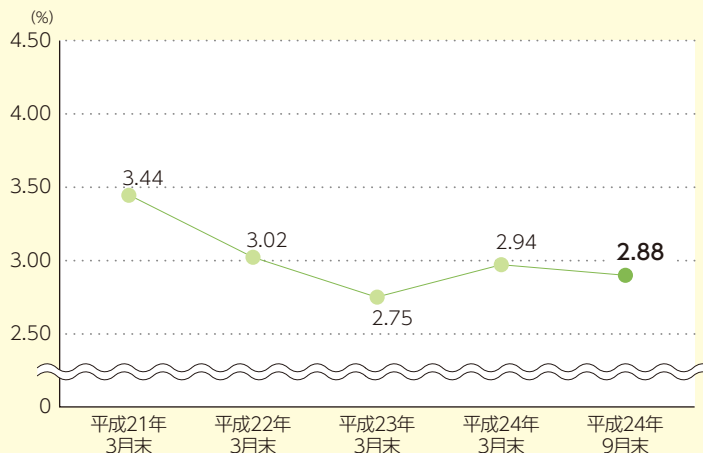
経営改善支援の取組み等

「中小企業金融円滑化法」の趣旨を踏まえ、全営業店への「ご返済相談窓口」の設置、ローンプラザ等で休日相談に対応するなど、従来以上にお取引先の資金繰り下支えとともに、お取引先企業の経営課題の把握・分析を踏まえ、適時に最適なソリューションを提案する等、コンサルティング機能の発揮により、経営改善・事業再生支援に積極的に取組んでまいりました。

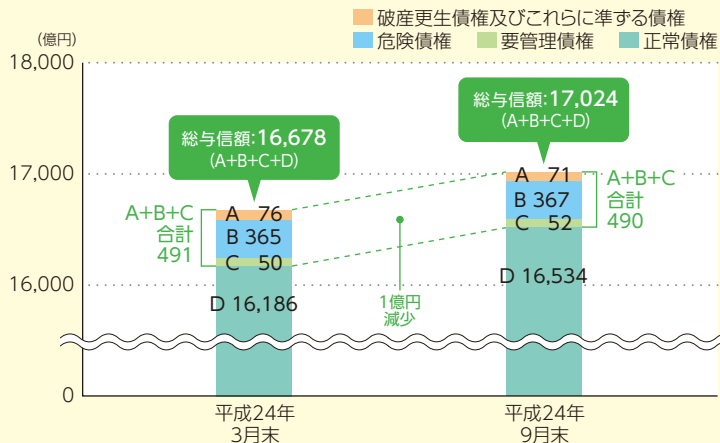
その結果、平成24年9月末の正常債権を除いた金融再生法における「開示債権額」は、平成24年3月末比1億円減少し490億円となりました。総与信に占める割合（開示債権比率）は、平成24年3月末比0.06ポイント低下し2.88%となりました。

今後も、経営コンサルティング会社等外部専門機関の活用も含め、お取引先企業に対する経営アドバイス、経営改善計画策定支援への取組みを強化してまいります。

金融再生法に基づく開示債権比率



金融再生法に基づく開示債権額比較



格付け

当行は、中立的な第三者による評価を取得し公表することで、投資家の皆さまやお取引先の皆さまに財務内容の健全性や収益性などについてご理解いただくため、平成18年10月に株式会社日本格付研究所(JCR)から長期優先債務(※)格付けを取得し公表しております。平成24年8月に見直しを行った結果、以下のとおり引き上げとなりました。

格 付 け ▶ **「BBB+」(トリプルBプラス)** [1ノッチ引き上げ]

格付け見直し ▶ **「安定的」** [ポジティブから変更]

(格付けの公表:平成24年8月27日)

※長期優先債務:格付対象会社の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。

利益分配に関する基本方針

当行は、銀行業としての公共性に鑑み、健全経営を確保するため内部留保の充実を図るとともに、安定的な配当に努めていくことを基本方針としております。

優先株式の配当 ▶ 当中間期の優先株式の配当につきましては、5月14日に公表のとおり、本年度末に一括配当とさせていただきます。

普通株式の配当 ▶ 当中間期の普通株式の配当につきましては、見送らせていただくことといたしました。

株主優待制度

日頃のご支援に感謝の意をこめて、ご優待制度の拡充に努めております。平成24年3月31日現在で千葉興業銀行の株式を100株以上所有されている個人・法人の株主さまを対象に「株主優待定期預金」の制度を引続きお取扱いしております(平成24年7月2日～平成25年3月29日)。従来の株主優待制度である「さわやかハロー24」(※)ともども、ご利用いただけますようお願い申し上げます。

※「さわやかハロー24」

当行の株主さまに無料で、健康や医療に関するご相談をベテランの医師などが電話でお受けするサービスです。健康・医療相談のほか、夜間・休日診療の医療機関ご案内、医療機関情報のご提供、介護などシルバー情報のご提供についてご利用いただけます。

地域コーナー

地域のお客さまとのお取引の状況

当行では預金の大半を地域のお客さまからお預かりしております。

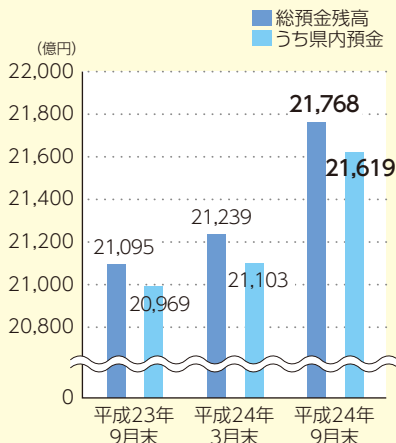
そしてこの大切な預金を県内の企業や個人のお客さまへの貸出しに向けております。

また、平成24年9月末の県内保証協会保証付貸出金は、11,236件の1,469億円となっております。

(注) 当行は主要な営業地域を千葉県内としておりますので、千葉県内の営業店舗の合計計数を「県内」計数として表示しております。

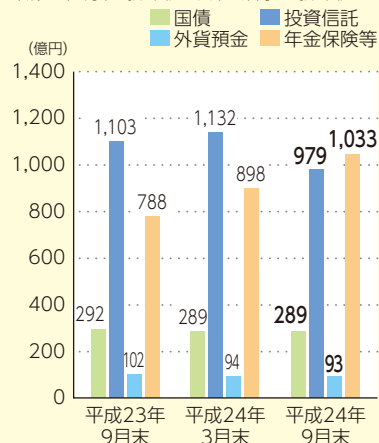
預金残高等

※預金残高には譲渡性預金を含めております。

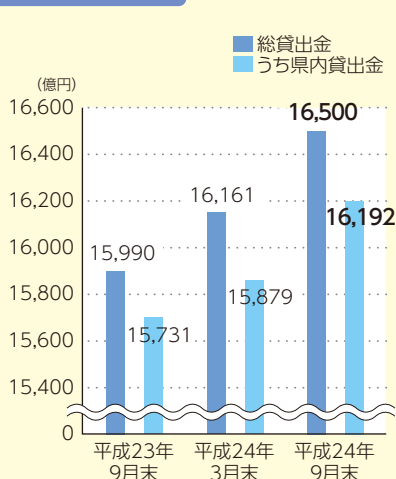


預り資産残高

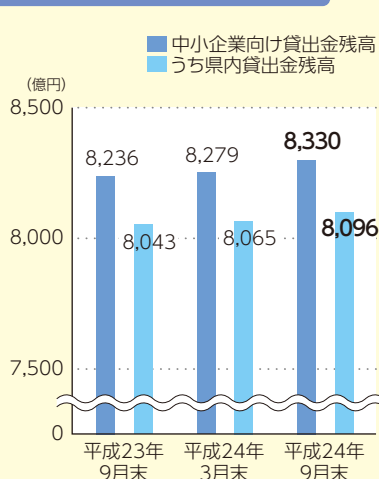
平成24年9月末の預り資産の大半が県内での預り資産です。



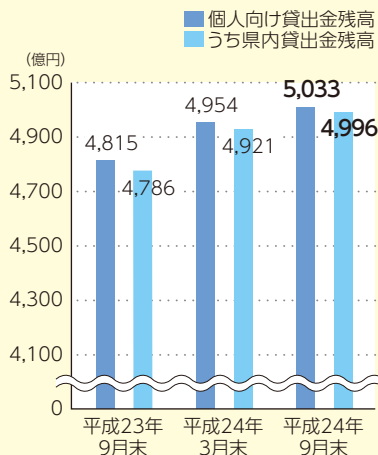
貸出金残高等



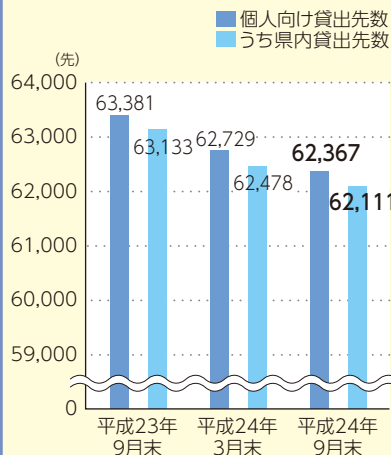
中小企業向け貸出金残高等



個人向け貸出金残高等

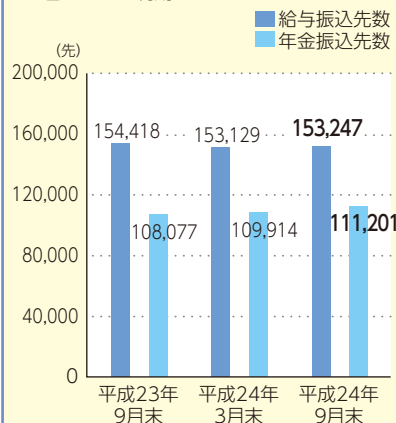


個人向け貸出先数等



給与振込・年金振込の口座数

給与振込や年金振込などについても、多くのお客さまのご利用をいただいております。



業種別貸出金残高

当行は、それぞれの業種において、資金供給者として重要な役割を担っています。

(単位:億円)

平成24年9月末	貸出金残高	うち県内向け
製造業	1,663	1,609
農業、林業	47	47
漁業	0	0
鉱業、採石業、砂利採取業	29	29
建設業	823	820
電気・ガス・熱供給・水道業	68	68
情報通信業	83	81
運輸業、郵便業	622	617
卸売業、小売業	1,910	1,876
金融業、保険業	557	556
不動産業、物品賃貸業	3,635	3,475
各種サービス業	1,705	1,693
地方公共団体	318	318
その他	5,034	4,996
合計	16,500	16,192

CSRの取組み～地域社会・地域経済への貢献～

当行の経営理念である「地域とともに」「お客さまのために」「『親切』の心で」の実現に向け、地域社会の活性化と持続可能性を高めるための活動を行っております。

中小企業育成への取組み

「千葉元気印企業大賞」

平成7年度より、フジサンケイ ビジネスアイ(日本工業新聞社)との共催で、千葉県の活気あふれる中小企業・ベンチャー企業の表彰を通じて地域企業の発展を支援しております。



次世代経営者育成への取組み

ちば興銀「経営塾」

ちば興銀「経営塾」は、地元企業育成支援・後継経営者育成支援の取組みのひとつとして、平成16年9月に設立されました。幅広い視点で経営を捉えていただくための視察会やセミナーを定期的に行っております。これまでに100名を超える塾生に学びの場を提供しております。

最近の活動状況

- 24/5 台湾ビジネス視察会
- 24/6 次世代経営研究講座
- 24/7 「大切にしたい会社」講座
- 24/8 第四期生修了式&講演会



震災復興に向けた取組み

「がんばろう千葉」キャンペーンへの取組み ～「がんばろう千葉応援隊」に参加～

東日本大震災からの復興を支援し、千葉県経済の活性化を応援するための様々な取組みを行っております。その活動のひとつとして、千葉県が実施する「がんばろう千葉」キャンペーン及び「がんばろう千葉応援隊」の趣旨に賛同し、法人として応援隊に加入しております。

当行は、今後も千葉を元気にするための様々な活動を行ってまいります。

「がんばろう千葉」キャンペーンについては下記千葉県HPをご参照ください。
(<http://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/miryoku/ganbaro/index.html>)

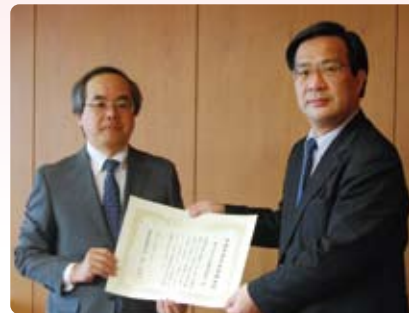


地域密着型金融取組み事例発表・関東財務局より顕彰状授与！（平成24年4月12日）

当行の医療・アグリビジネス分野を含めた取組みが高く評価され、関東財務局より「平成23年度地域密着型金融に関する取組みへの顕彰状」をいただきました。

関東財務局が、地域金融機関の地域密着型金融の取組みを進化・定着させることを目的に、管内金融機関の取組みを評価し優良な金融機関を顕彰するものです。

当行は今後も、地域活性化と地元企業の成長を支援する様々な取組みを続けてまいります。



次世代育成への取組み

夏休み体験隊「サマーキッズスクール2012」開催！（平成24年8月28日）

次世代育成支援を目的に、毎年実施している金融教育・しごと体験イベントで、今回で6回目の開催となります。県内在住の小学校5・6年生30名に参加いただきました。また、当行でのインターンシップに参加している県内の大学生が、カリキュラムの一環として運営に協力いたしました。

当日は、千葉商科大学大学院教授、伊藤宏一先生を講師に、「お金って何？」をテーマに、お金の意味や使い道などについて学習し、続いて、マリーンズ戦のプログラムを販売する「働く」体験をすることで、大切なお金に関する理解を深めていただきました。

講師／
千葉商科大学大学院教授
伊藤 宏一 先生



次世代育成への取組み

「くるみんマーク」再取得！千葉労働局長より認定証交付！

千葉労働局長より、次世代育成支援対策推進法(※)第13条に基づく「基準適合一般事業主」としての認定を受け、次世代認定マーク(愛称)くるみん」を再取得いたしました。平成19年に続き2回目の認定・取得となります。

当行では、従業員が仕事と育児を両立できるよう支援するための環境整備・各種施策等の実施を、従業員に対するCSR(企業の社会的責任)の一環と位置付け、積極的に取り組んでおります。

当行は、今後も継続して仕事と家庭の両立を支援し、働きやすい職場作りに努めてまいります。



次世代認定マーク
(愛称:くるみん)

「2012・07」は2007年と2012年に認定を受けたことを示しています。

※「次世代育成支援対策推進法」

急速な少子化に対応し、次世代を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境整備を目的に平成17年に施行されたものです。仕事と子育ての両立ができる環境の整備などについて行動計画を策定し、都道府県労働局に届け出を行い、目標の達成が認定されると、次世代認定マーク(愛称:くるみん)が付与されます。

なお、当認定は平成19年4月より申請受付が開始されており、**当行は千葉県内における第1号の認定企業**となっております。

「こども110番のいえ」を全店で展開！（平成24年8月1日）

犯罪に巻き込まれそうになり助けをもとめてきたこどもの保護や110番通報、保護者への連絡を行う「こども110番事業」に参画し、窓口の営業時間内において「こども110番のいえ」としての活動を行っております。

当行オリジナルステッカーを全営業店入口に貼付し、地域と一体でこどもたちの安全を守るための活動を展開してまいります。



60周年運動の展開

～つないでいこう。これからも～



地域への取組み

「おかげさまで60周年・ちば興銀スペシャルデー」開催！（平成24年6月2日）

毎年マッチデーを行っており、今回は創立60周年記念事業の一環として開催いたしました。当日は、ちば興銀ブースにて、観戦チケットや特製タオルなどが当たる、ガラポン抽選会を先着1,500名さまに行ったほか、ラッキーナンバーチャシの配布や、60周年を記念して、スクラッチくじによる60個の福袋プレゼントを行いました。

千葉県のキャラクター・チーバくと千葉ロッテマリーンズのキャラクター・マー君が競演する様々なイベントも開催され、参加された方には大変ご好評をいただきました。

当行は地元金融機関として、今後も千葉ロッテマリーンズを応援するとともに、千葉県の活性化に寄与するための活動を行ってまいります。



環境への取組み

「緑のカーテン運動」の実施

創立60周年記念事業の一環として、「緑のカーテン運動」(*)を展開してまいります。初年度は本店で活動を開始し、本店役職員を中心に壁面緑化のモデル実習として、パッションフルーツの栽培を行いました。来年度以降、県内各地の学校、自治体等と協力し、全店で展開していく予定です。

※「緑のカーテン運動」：光合成によるCO₂の吸収を図るとともに、夏の強い日差しを遮り、空調負荷の低減をめざす壁面緑化運動により、地域の皆さまとともに、環境にやさしい街づくりを支援する活動



文化・スポーツ活動

「美しい房総」写真展の開催

美しい郷土・風景をお楽しみいただこうと、季節にあわせ、県内写真家の傑作を当行の営業店ロビー等で随時展示しております。



コスモスコンサートの開催

地元の皆さまにクラシック音楽に親しんでいただけるよう、JR千葉駅前広場にてミニコンサートを19年連続で開催しております(6月「祝・千葉県民の日」)。



各種スポーツ大会・文化活動への協賛

毎年、当行主催による「千葉興業銀行杯親善ゲートボール大会」を開催しており、多くの県内ゲートボール愛好家の方々にご参加いただいております。



また、「千葉県障害者スポーツ大会」への協賛及び選手参加(5月)や、その他県文化振興財団等への協賛も行っております。

「ちばアクアラインマラソン」に協賛！

平成24年10月に行われた「ちばアクアラインマラソン」に、オフィシャルスポンサーとして協賛いたしました。

また、当行清見台出張所の駐車場を応援イベント会場として提供し協力いたしました。



社会奉仕活動

「小さな親切」運動の推進

当行は、33都道府県が参加する全国的組織「小さな親切」運動の千葉県本部及び事務局として、県内の運動推進に努めております。「小さな親切」を実行した人に贈る「実行章」は、千葉県内で平成24年度上期(4月～9月)において258名が受章されました。当行行員は全員会員登録しており、清掃等のボランティア活動や寄付・募金活動を実施しております。



地域交流活動への積極的参加

例年、春の県下一斉ゴミゼロ運動に行員・スタッフ及びその家族がボランティア参加しております(全部室店参加 総数1,049名)。

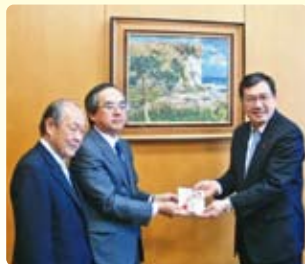
また、国道14号・357号沿線の16企業・団体で組織される「国道をきれいにする会」に参加し、毎月沿道を清掃しております(平成23年度延べ431名参加)。



交通安全意識を啓蒙

当行と千葉日報社が共同で設立した「コスモス交通安全協力会」より、県内新中学一年生へスポークライト(自転車事故防止用反射板)を毎年贈呈しております(18年間で延べ221,900個)。

また、県の交通安全推進委員会が推進する交通安全運動期間におけるポスターの全店掲示及び、交通安全リボンを全行員・スタッフが着用し、交通安全意識の啓蒙につとめております。



寄付活動

行員やお客さまから集めた不要衣料品を千葉県民間病院協会会員である柏戸病院と千葉みなと病院へ寄贈しております。また、全店から集めた古切手・使用済テレカ等を、千葉市社会福祉協議会ボランティアセンターへ寄贈しております。これらは、障がい者への車椅子購入やボランティア活動資金に利用されております。

当行役職員による募金活動「ともしびの会」より、年末に県内の養護施設等へ浄財を寄贈しております。



トピックス

HPを全面リニューアル！(平成24年4月～)

お客さまによりわかりやすく、使いやすいホームページと
するため、全面リニューアルを行いました。

各商品・サービスページの内容を充実させ、トップページ
には年代別のお金に関する悩みにお答えする「お金の心配！
相談室」や「シニアの実用書(資産運用編)」等、おすすめコン
テンツを掲載いたしました。また、スマートフォンでご利用
いただける専用ページにも対応しております。

お客さまにとってより良いホームページとなるよう、今後
も更なる内容の充実を図ってまいります。



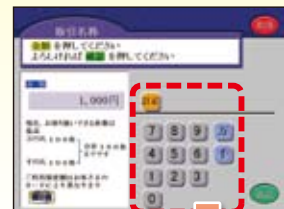
お客さまにやさしい店づくり

全店舗内ATMのセキュリティ強化&操作性向上！(平成24年9月21日)

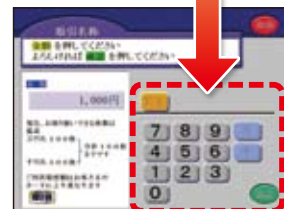
指の動きから暗証番号を読み取られる危険性を防止する
ため、暗証番号の入力時に数字ボタンの配列が変更できる
『並び替え』の機能を追加し、また、払出金額の入力や振込時
における口座番号入力など、高齢のお客さまにもボタン
操作が容易に行えるよう数字ボタンを従来の1.5倍程度
拡大いたしました。

当行はこれからもお客さまにご利用しやすく、やさしい店
づくりをすすめてまいります。

【変更前】



【変更後】



当行住宅ローンご利用者向け

「ちば興銀サポートローン」発売！（平成24年8月10日）

当行の住宅ローンをご利用いただいているお客さま向けに「ちば興銀サポートローン」を発売いたしました。リフォーム資金、マイカー資金、教育資金の3つのニーズに対応し、従来のローン商品より割引金利でご利用いただける等内容を拡充した商品となっております。

*詳細は商品概要説明書(当行HPにも掲載)をご参照ください。



「エコ(eco)でやさしい店づくり」

佐原支店・新築移転！（平成24年9月18日）

3つのコンセプト(「お客さまにやさしい」・「地域にやさしい」・「環境にやさしい」)に基づいて、これまで以上にご利用いただきやすい店舗といたしました。

風力と太陽光の2つのクリーンエネルギーを利用したハイブリット街路灯や、カーボンオフセット認証カーペットを採用するなど環境に配慮し、また、点字ブロックを設置するなど、「エコ(eco)でやさしい店づくり」をテーマとした店舗です。

ATMコーナーには佐原の町並みを描き、ショーウィンドーには伝統的な地元の祭りをテーマとしたポスターを掲示するなど、地域の皆さまとの交流を広くアピールいたしました。



財務諸表

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第91期中(平成24年9月30日現在) 中間貸借対照表

(単位:百万円)		(単位:百万円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	31,929	預 金	2,169,540
コールローン	45,000	譲 渡 性 預 金	7,320
買入金銭債権	10,291	借 用 金	15,500
商品有価証券	128	外 国 為 替	9
有 価 証 券	562,375	そ の 他 負 債	13,721
貸 出 金	1,650,023	未 払 法 人 税 等	142
外 国 為 替	2,194	リ ー ス 債 務	1,863
そ の 他 資 産	8,290	そ の 他 の 負 債	11,714
その他の資産	8,290	退職給付引当金	5,670
有形固定資産	19,902	役員退職慰労引当金	73
無形固定資産	2,392	睡眠預金払戻損失引当金	384
繰延税金資産	21,952	支 払 承 諾	19,766
支払承諾見返	19,766	負債の部合計	2,231,987
貸倒引当金	△9,341	(純資産の部)	
資産の部合計	2,364,907	資 本 金	57,941
		資本剰余金	32,792
		資本準備金	32,792
		利益剰余金	42,341
		利益準備金	3,291
		その他利益剰余金	39,049
		繰越利益剰余金	39,049
		自 己 株 式	△64
		株主資本合計	133,011
		その他有価証券評価差額金	△91
		純資産の部合計	132,919
		負債及び純資産の部合計	2,364,907

第91期中(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで) 中間損益計算書

(単位:百万円)	
科 目	金 額
経 常 収 益	22,538
資金運用収益	16,308
(うち貸出金利息)	(13,059)
(うち有価証券利息配当金)	(3,091)
役員取引等収益	3,525
その他業務収益	1,267
その他経常収益	1,436
経 常 費 用	17,003
資金調達費用	635
(うち預金利息)	(575)
役員取引等費用	1,862
その他業務費用	499
営業経費	12,740
その他経常費用	1,266
経 常 利 益	5,534
特 別 損 失	82
税引前中間純利益	5,452
法人税、住民税及び事業税	27
法人税等調整額	622
法人税等合計	649
中 間 純 利 益	4,802

第91期中(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで) 中間株主資本等変動計算書

(単位:百万円)		(単位:百万円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
株 主 資 本		自 己 株 式	
資 本 金		当期首残高	△64
当期首残高	57,941	当中間期変動額	
当中間期変動額		自己株式の取得	△0
当中間期変動額合計	—	当中間期変動額合計	△0
当中間期末残高	57,941	当中間期末残高	△64
資 本 剰 余 金		株主資本合計	
資本準備金		当期首残高	129,628
当期首残高	32,792	当中間期変動額	
当中間期変動額		剰余金の配当	△1,419
当中間期変動額合計	—	中間純利益	4,802
当中間期末残高	32,792	自己株式の取得	△0
資本剰余金合計		当中間期変動額合計	3,383
当期首残高	32,792	当中間期末残高	133,011
当中間期変動額		評 価 ・ 換 算 差 額 等	
当中間期変動額合計	—	その他有価証券評価差額金	
当中間期末残高	32,792	当期首残高	657
利 益 剰 余 金		当中間期変動額	
利益準備金		株主資本以外の項目の	
当期首残高	3,007	当中間期変動額(純額)	△749
当中間期変動額		当中間期変動額合計	△749
剰余金の配当	283	当中間期末残高	△91
当中間期変動額合計	283	評価・換算差額等合計	
当中間期末残高	3,291	当期首残高	657
その他利益剰余金		当中間期変動額	
繰越利益剰余金		株主資本以外の項目の	
当期首残高	35,950	当中間期変動額(純額)	△749
当中間期変動額		当中間期変動額合計	△749
剰余金の配当	△1,703	当中間期末残高	△91
中間純利益	4,802	純 資 産 合 計	
当中間期変動額合計	3,099	当期首残高	130,285
当中間期末残高	39,049	当中間期変動額	
利益剰余金合計		剰余金の配当	△1,419
当期首残高	38,957	中間純利益	4,802
当中間期変動額		自己株式の取得	△0
剰余金の配当	△1,419	株主資本以外の項目の	
中間純利益	4,802	当中間期変動額(純額)	△749
当中間期変動額合計	3,383	当中間期変動額合計	2,634
当中間期末残高	42,341	当中間期末残高	132,919

第91期中(平成24年9月30日現在)
中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	32,206	預 金	2,159,341
コールローン及び買入手形	45,000	譲渡性預金	7,320
買入金銭債権	10,291	借 用 金	26,868
商品有価証券	128	外 国 為 替	9
有 価 証 券	561,933	そ の 他 負 債	18,546
貸 出 金	1,644,482	退職給付引当金	5,822
外 国 為 替	2,194	役員退職慰労引当金	120
そ の 他 資 産	28,308	睡眠預金払戻損失引当金	384
有形固定資産	19,821	支 払 承 諾	25,040
無形固定資産	2,688	負債の部合計	2,243,452
繰延税金資産	22,450	(純資産の部)	
支払承諾見返	25,040	資 本 金	57,941
貸倒引当金	△13,712	資本剰余金	32,792
資産の部合計	2,380,835	利益剰余金	45,130
		自己株式	△64
		株主資本合計	135,800
		その他有価証券評価差額金	△83
		その他の包括利益累計額合計	△83
		少数株主持分	1,665
		純資産の部合計	137,382
		負債及び純資産の部合計	2,380,835

第91期中(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)
中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額
経 常 収 益	26,329
資金運用収益	15,920
(うち貸出金利息)	(13,068)
(うち有価証券利息配当金)	(2,694)
役員取引等収益	3,926
その他業務収益	1,267
その他経常収益	5,214
経 常 費 用	20,445
資金調達費用	702
(うち預金利息)	(574)
役員取引等費用	1,362
その他業務費用	499
営業経費	12,917
その他経常費用	4,962
経 常 利 益	5,883
特 別 損 失	82
税金等調整前中間純利益	5,801
法人税、住民税及び事業税	257
法人税等調整額	616
法人税等合計	874
少数株主損益調整前中間純利益	4,926
少数株主利益	112
中 間 純 利 益	4,813

第91期中(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)
中間連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
株 主 資 本		そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額	
資 本 金		その他有価証券評価差額金	
当期首残高	57,941	当期首残高	669
当中間期変動額	—	当中間期変動額	—
当中間期末残高	57,941	株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	△752
資本剰余金		当中間期変動額合計	△752
当期首残高	32,792	当中間期末残高	△83
当中間期変動額	—	その他の包括利益累計額合計	669
当中間期末残高	32,792	当中間期変動額	—
利益剰余金		株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	△752
当期首残高	41,735	当中間期変動額合計	△752
当中間期変動額	—	当中間期末残高	△83
剰余金の配当	△1,419	少 数 株 主 持 分	
中間純利益	4,813	当期首残高	1,602
当中間期変動額合計	3,394	当中間期変動額	—
当中間期末残高	45,130	株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	62
自 己 株 式		当中間期変動額合計	62
当期首残高	△64	当中間期末残高	1,665
当中間期変動額	—	純 資 産 合 計	
自己株式の取得	△0	当期首残高	134,678
当中間期変動額合計	△0	当中間期変動額	—
当中間期末残高	△64	剰余金の配当	△1,419
株主資本合計		中間純利益	4,813
当期首残高	132,406	自己株式の取得	△0
当中間期変動額	—	株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	△689
剰余金の配当	△1,419	当中間期変動額合計	2,704
中間純利益	4,813	当中間期末残高	137,382
自己株式の取得	△0		
当中間期変動額合計	3,394		
当中間期末残高	135,800		

役員・株式の状況

役員 (平成24年11月30日現在)

取締役頭取・CEO	青柳	俊一
取締役副頭取・COO	梅村	星児
専務取締役・専務執行役員	星野	智史
常務取締役・常務執行役員	田中	宏
常勤監査役	安田	達央
常勤監査役	田仲	直樹
監査役	佐藤	英夫
監査役	原口	秀夫

(注) 監査役佐藤英夫氏および原口秀夫氏は、東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2にいう独立役員であります。

株式の状況 (平成24年9月30日現在)

1 株式数

株式の種類	発行可能株式総数	発行済株式の総数
普通株式	138,750千株	50,722千株
第一回第一種優先株式	1,250千株	1,250千株
第二回第二種優先株式	5,000千株	5,000千株
第三回第三種優先株式	35,000千株	17,150千株

2 株主数

普通株式	11,641名
第一回第一種優先株式	2名
第二回第二種優先株式	2名
第三回第三種優先株式	1名

3 大株主

株式の種類	氏名又は名称	持株数 (千株)	持株比率 (%)
普通株式	株式会社みずほコーポレート銀行	4,791	9.44
	株式会社みずほ銀行	4,791	9.44
	明治安田生命保険相互会社	2,158	4.25
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,721	3.39
	株式会社損害保険ジャパン	1,588	3.13
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,439	2.83
	坂本飼料株式会社	1,249	2.46
	みずほ信託銀行株式会社	926	1.82
	千葉興業銀行行員持株会	740	1.46
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	642	1.26
第一回第一種優先株式	株式会社みずほコーポレート銀行	625	50.00
	株式会社みずほ銀行	625	50.00
第二回第二種優先株式	株式会社みずほコーポレート銀行	2,500	50.00
	株式会社みずほ銀行	2,500	50.00
第三回第三種優先株式	株式会社整理回収機構	17,150	100.00

- (注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
3. 普通株式の持株比率は自己株式(54,184株)を控除して、算出しております。

株式のご案内

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 配当受領株主確定日 期末配当:毎年3月31日
中間配当:毎年9月30日
- 定時株主総会 毎事業年度終了後3か月以内に開催
- 基準日 定時株主総会については、毎年3月31日
その他必要あるときはあらかじめ公告する一定の日
- 単元株式数 100株
- 公告掲載新聞 東京都において発行する日本経済新聞
なお、決算公告につきましては、
当行ホームページの下記アドレスに
掲載いたします。
<http://www.chibakogyo-bank.co.jp/toushi/ir/koukoku.html>
- 株式事務取扱場所
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
本店 証券代行部

■ 単元未満株式の買取請求について

単元未満株式をご所有の場合、その単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度(買取制度)がございますので、どうぞご利用ください。

特別口座に記録された株式の買取請求については、下記株主名簿管理人(特別口座管理機関)において受付けております。また、証券会社等の口座に記録された株式の買取請求については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

■ 特別口座株式のご売却について

特別口座にて管理されている単元株式を売却されるには、事前に証券会社等の口座を開設し、その後振替手続を行っていただく必要があります。お手続き等の詳細は下記株主名簿管理人(特別口座管理機関)にお問い合わせください。

株主名簿管理人(特別口座管理機関)

みずほ信託銀行株式会社

■ お問合せ先(郵便物送付先)

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324

株主様のご住所・お名前等に関する文字に関してのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等(いわゆる「外字」)が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記録いたしております。

このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。

株主様のご住所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。



〒261-0001 千葉市美浜区幸町二丁目1番2号

TEL.043-243-2111

<http://www.chibakogyo-bank.co.jp/>